

碧玉粧成一樹高 万条垂下緑絲條

不知細葉誰裁出 二月春風似剪刀

【読み】

碧玉（へきぎよく）粧（よそお）いを成して一樹（いちじゆ）の高き 万条（ばんじょう）垂れ下る緑絲（りよくし）の條（とう）
知らず 細葉は誰（た）が裁ち出（い）づるを 二月の春風は剪刀（せんとう）に似たり

【意味】

高くそびえる柳の木は、翡翠のような新緑で美しく装い、無数の枝が緑の絹の帯のように垂れ下がっている。これらの細やかな葉は誰が作り出したのだろうか。それは、まるで二月の春風が鋏（はさみ）のように巧みに切り出したかのようだ。

*碧玉…緑色をした宝石。翡翠。

*條…絹糸を平たく編んだひも・帯

*剪刀…鋏

【出典】詠柳（賀知章・盛唐）

この詩は、春風が柳の葉を繊細に形作る様子を巧みに比喻して春の訪れと自然の美しさを見事に表現した作品です。